



ステップアップ研修講座報告

日時：平成 29 年 10 月 19 日(木) 午後 2 時～
会場：アウィーナ大阪

10 月 19 日 (木) 9 名の参加を得て、ステップアップ研修 (採用 2 年目研修) を開催しました。

第一部は「コミュニケーションスキル研修」を行いました。

「今年が一番高い買い物」というテーマ等でグループ内交流をしたので、参加者の緊張は徐々にほぐれていったようでした。

第二部は「未来予想図を作ってみよう」というテーマでワークショップを行いました。

まず、自分自身の「強み」「弱み」、現在の職場の「良いところ」「直した方がよいところ」の 4 点を付箋に書いて、大きな紙で整理していきます。勤務が 2 年目ということもあり、「強み」については、まだまだ挙げにくいようでした。職場の良いところとして、近隣校の事務の方々と助け合っ業務に取り組んでいること等が挙げられました。また悩みとして、「所属校の苦しい状況を打開していきたい」「教員や保護者からは、学校事務の職務があまり理解されていないので確立していきたい」という意見もありました。

次に、めざす事務職員像に向けて、今後 10 年のタイムスケジュール、10 年後の自分に向けてのメッセージを自己実現シートに記入していきます。「10 年後、キャリアアップして副主査、主査になりたい。その後は管理職になって学校運営に貢献したい。そのために、現在の定型業務を早くこなせるようにする。後輩にアドバイスできるようになる」といった目標もありました。また、10 年後の自分へのメッセージとして「今の仕事は楽しいか、やりがいを持って取り組んでいるか」というものがあり、そのグループ内では「これからの自分次第で決まってくるのではないか」と意見が出ていました。

今年度は、事務職員の職務規定が「事務に従事する」から「事務をつかさどる」へと改められた節目となる年です。今回の参加者の思いや目標は、まさに学校運営に積極的に参画し、事務をつかさどるという内容であり、その意識を高めていく有意義な研修であったと感じました。
(総務部 桃原)

パソコン知識

パソコンが
付箋のパネルに
なっていないませんか？

デスクトップアプリ
の付箋は予定などを
コピーして表示する
には便利だったりし
ます。

Windows10では、
「Sticky Notes」
ですね。

常時画面の隅に
貼り付けておい
て、+マークを
クリックして新
規追加して使う
と便利です。

もちろん、担当さんの
電話番号と内線は
一番目立つところに
貼っています。

いつもお世話に
なっています。

(副会長 井澤)

第72回研修講座報告

これからの学校事務職員

～拡がる職分、広げる職分、2020年以降を見据えて～



日時 : 平成 29 年 11 月 16 日 (木) 午後 2 時～
 場所 : アウィーナ大阪
 講師 : 学校働き方研究所
 代表 杉山 史哲 様

学校事務職員の仕事は将来 A I (人工知能) に奪われるか？

私たちにとって差し迫った質問で始まった今回の研修は、従来の研修の形とは少し違った形で行われました。参加者が自身のスマートフォンやタブレットを使って、未来の事務職員の姿が読み取れるような専門的な文章を、「探し」「見つけ」「読む」。そしてそのデータを基に多様な人と「話し」「聴き」「考える」。そして答えを見いだしていく。そんな展開で研修が進みました。

まず導入部分として、3人の石切り職人の話をされました。新しい教会を建てるために働いている3人の石切り職人に、「何のためにあなたは働いているのですか？」と旅人が質問します。3人それぞれの答えは、生活のため、自分自身のスキルアップため、町の人のためでした。次に同じ質問を学校事務職員に置き換えて考えました。あなたならどう答えますか？

続いて第一章として、2030年の日本はどうなっているかを調べました。「2030年には生産年齢人口が減り、高齢者人口が増える。さらに今よりグローバル化が進んでおり、各方面で A I や I o T (Internet of Things) が普及し、働き方や職種は大きく変わっているだろう」という意見もありました。どのグループも問題を分担して調べるなど、協力して答えを見いだしていきました。

そして第二章は、そんな未来を迎えるにあたり、小中学校ではどのような教育を子どもたちにしていけばよいのかを考えました。新学習指導要領の「社会に開かれた教育課程」「カリキュラム・マネジメント」「主体的・対話的で深い学び」という3つのキーワードについて調べていきました。

最後に、第一章・第二章を踏まえつつ、自分が思う“未来を生きる学校事務職員”になるために、今自分ができることは何かを考えて研修は終わりました。講師の先生から、「一人で考える・動くのではなく、対話を重ねて色々な人と協働することが大切である。みなさんは3人目の石切り職人にならなければいけません」とお話があり、研修を締め括りました。

参加者からは「これが主体的な学びであると感じた」「子どもたちがこれから生きていくために、何が必要なのかを真剣に考えなくてはいけないと思った」など、めまぐるしく変化していく時代を見据えた感想が聞かれました。

(総務部 中野)



編集後記

暑かった京都大会が終わり、バタバタと忙しかった体育大会も終わり、ゆっくりと秋の紅葉を楽しもうと思っていたら、瞬間に秋から冬へと季節がかわってききました。今年の冬は寒い冬になるそうです。バイク通勤の私にはつらい日々が続きます。

そんな寒さを吹き飛ばすぐらゐの熱い研究大会にするために、特別委員会で議論をしていただいています。

特別委員会からの提言を受け、たくさんの方が参加したくなるような研究大会になるように、役員会・専門部・実行委員会などの場で、熱い議論を交わすことが必要だと感じる今日この頃です。(M)

